

The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

December
ISSUE



December, 2021
Volume 118

「クリスマスがやってきます」

今年は秋になっても暖かい日が続き、ようやく紅葉の季節を迎えたかと思えば、はや北風の強い 12 月がやって来ました。12 月といえばクリスマス、1 年の中で一番神様の存在を意識する季節です。この時期になると十数年前に行ったアメリカオハイオ州での教員研修を思い出します。

同じクリスマスでもところ変われば様子が違います。クリスマスツリーは実際に山に行つてちょうどいい大きさのモミの木を切って持って帰ったり、七面鳥を丸ごとオーブンで焼いたり、町全体の街路樹が美しいイルミネーションで飾られたり、日本では定番のデコレーションしたケーキはほとんど見当たらなかったり。サンタクロースに奥さんがいるのを知ったのもこの時でした。帰国してから子供たちへのクリスマスプレゼントが、我が家のツリーの下に置かれるようになったのもその影響です。そして、アドベントカレンダー。1 日 1 個窓を開けていき、すべての窓を開け終わるとクリスマスがやってくるという楽しいカレンダーです。窓を開けるとお菓子や小さな贈り物などのお楽しみがあるクリスマスを盛り上げるアイテムです。今年我が家は 100 円ショップでタペストリーツリーとラッピングバッグを買って、手作りアドベントカレンダーに挑戦しました。

2 年生のユニット 5 では「お祝いや祭りごと、伝統行事は、みんなが持っている信念や価値を表している。」を Central Idea に、古くからある祭りやイベントにはどんな由来があり、人々にどんな影響及ぼすかを学んでいます。子どもたちが今後海外の文化に触れていく経験は、きっとこの Central Idea の理解をより深めてくれることでしょう。

また、アメリカでは神様の存在について宗教観の違いを知ることもありました。研修の後半、ある会食の場で現地の先生と話した時に、「自分にとって大切なもの」という話題になりました。

「一番に大切なものは家族、二番目は神様だわ。」困ったときに神様、仏様とお祈りをする事はあっても、今まで大切なものとして神様を思い浮かべる事はなかったの、とても印象的な言葉でした。

クリスマスソングの定番「赤鼻のトナカイ」の歌は日本でも有名ですが、原曲はルドルフというトナカイについて歌われています。翻訳では「いつも泣いてたトナカイさんは今宵こそはと喜びました。」ですが、原曲では、

Then all the reindeer loved him
As they shouted out with glee,
"Rudolph, the red-nosed reindeer,
You'll go down in history."

「仲間のトナカイ達はみんな彼を大好きになり『ルドルフ、君は歴史に残るトナカイだよ』と喝采しました。」という終わり方です。どちらもハッピーエンドですが日本語訳は少し控えめな感じがするのは私だけでしょうか。

「蛍の光」も同じく、年末や商店の終了時間に流れる曲でおなじみですが、生まれた国スコットランドでは結婚式やお正月にも歌われるそうです。もし参列した結婚式で蛍の光が流れたら…、思わず拍手を止めてしまいそうですね。

様々な視点を持つことは 11 月号の Learner で紹介されていた Perspective (見方を変えてみるとどう見えるか) の理解にもつながります。そして、さらにその違いに対して「なぜそうなったのだろう?」「他の国ではどうなのかな?」と興味を持つことも、とても大事です。

家庭での子どもたちの何気ない会話の返事を「ふーん、そうなんや。」から「へー! そうなんだ。なんでそう思ったの? 教えて。」としてみてはどうでしょう。良い話し手は良い聞き手によって育ちます。冬休みは親子で Communicator になってみませんか。

教頭 西村孝次



キリスト教 教育テーマ

12月：喜び December: Joy

「めいめい、自分のことだけではなく、他人のことにも注意を払いなさい。」フィリピの信徒への手紙 2章4節

クリスマスも近いある日のこと、スージーという名の女の子が、大好きなオルガおばさんと二人でクリスマス・マーケットの見物に来ていました。マーケットには、クリスマスに飾る置物やお菓子などの屋台がたくさん並んでいましたが、スージーはある屋台の前でびたりと立ち止まりました。そこには大きくてすばらしく綺麗な、天使の人形が飾られていたのです。顔は普通の人形の顔ですが羽は木でできていて、布で作った本物そっくりのドレスを着ていました。

「私、あの天使の人形がほしいわ。ねえ、オルガおばさん買ってちょうだい。ねえ、ねえ、お願い！」と、スージーはおばさんにおねだりしました。「でも、あなたへのクリスマス・プレゼントはもう買ってあるのよ。」と、おばさんは答えました。するとその時、屋台のおじさんがこう言ったのです。「もしお嬢ちゃんが、どうしてもこの天使の人形がほしいとお思いでしたら、半額でお譲りしますよ。」

さて、このお話の続きはどうなるでしょうか。皆さんも一度、考えてみてください。

実はこのお話の続きにはスージーが書いたものとオルガおばさんが書いたもの、そして屋台のおじさんが書いたものの3種類があります。

まずスージーが書いたのは、こんなお話です。

- ① オルガおばさんは屋台のおじさんに答えました。「私はこの子に、とても高価なクリスマス・プレゼントを買ってあるのです。本当にもうこれ以上、お金を使うことはできませんから。」スージーは、今にも泣き出しそうな顔をしていました。それを見た時、屋台のおじさんは自分の小さな娘が悲しい時に見せる表情を思い出し、スージーが可哀そうになりました。彼は天使の人形を取り上げ、スージーの手に渡して言いました。「お蔭様でおじさんは今年、商売がとてもうまくいってね。これは君にプレゼントすることにしよう。」

次にオルガおばさんが書いたのは、こんなお話です。

- ② 「ああ、スージー。」オルガおばさんはため息をつきました。「私は本当にその人形を買うことはできないの。あなたへのクリスマス・プレゼントに、すごくたくさんお金を使ってしまったのよ。」スージーは悲しそうな顔をしていましたが、やがて朗らかな笑みを浮かべて言いました。「オルガおばさんはきっと、すごく素敵なプレゼントを私に買ってくれたのよね。だって、今までがいつもそうだったのですもの。もしかすると、そのプレゼントの方がこのお人形よりもずっと素晴らしいものかも知れないわ。」「少なくとも、この人形と同じくらいにあなたが気に入るものよ。」と、オルガおばさんは約束しました。スージーは人形のことはすぐに忘れ、おばさんからもらえるクリスマス・プレゼントのことだけを楽しみに考え始めました。

最後に屋台のおじさんが書いたのは、こんなお話です。

- ③ 「一つだけ方法があるわ。」オルガおばさんはスージーに言いました。「あと2か月したら、あなたのお誕生日ね。もし本当にこの人形がそれほど欲しいのなら、今、お誕生日祝いとして買ってあげましょう。その代わりお誕生日には、もう何も買ってあげられないわ。」スージーはもちろん承知しました。お誕生日はまだ先のことだからです。けれども3人の中で一番喜んだのは、屋台のおじさんでした。おじさんはこの天使の人形を、もう3年も店に並べていましたが、さっぱり買い手がつかなかったのです。人形が売れて手に入ったお金で、おじさんは自分の小さな娘に、もっとたくさんのお金でクリスマス・プレゼントを買うことができたのでした。

如何でしたか。同じ出来事でも、いろいろな見方や感じ方があるものです。

私たちは今、どのように感じ、行動するのが正しいことなのか？自分の気持ちばかりではなく、傍にいる人がどんな気持ちで過ごしているのかをもう一度よく考えながら、クリスマスまでの日々を過ごしたいものです。

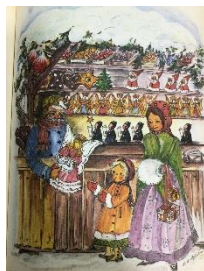
(この原稿は11月26日点灯式朝礼で行ったメッセージに加筆・修正したものです。)

Christian Education Committee チャプレン石川眞弓

出典：Die schönsten Geschichten
zur Weihnachtszeit

絵と文 Helga R. Rossmeisl

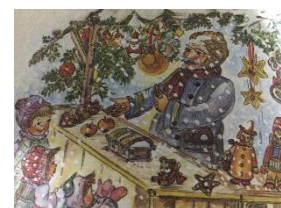
①



②



③



<お知らせ>

- ① 11月5日の収穫感謝礼拝ではたくさんのお米が寄せられ、恵みに満ちた礼拝となりました。礼拝で感謝して捧げた後は、「京都寄り添いネット」(日本バプテスト教会内)と「釜ヶ崎いこいの家」の二つの施設へ寄付されました。それぞれの施設よりお礼状が届いていますので、ご覧ください(職員室前掲示板)。
- ② 今月のおにぎり献金は、12月14日(火)です。お子様に献金をお持たせください。感染症予防のため、必ず封筒などに入れてお持たせいただきますようお願い申し上げます。なお昨年同様、今年度もページェント募金がありませんので、そのことをも覚えてお捧げくださると幸いです。

Grade 5 オンライン社会見学

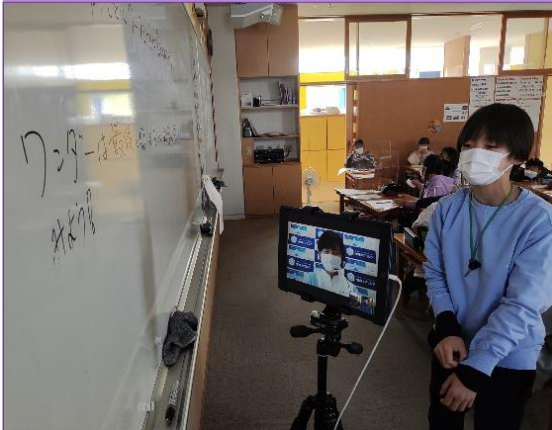
～雪印メグミルク京都工場～

5年生のUOI(探究の単元)の学習では「Society 5.0の社会は、商品やサービスの生産・消費・交換によって動いていく。」をセントラル・アイデアに設定し、探究の学習を進めています。

11月2日(火)、雪印メグミルク京都工場(京都府南丹市)とオンラインで結び、社会見学を実施しました。この工場では、牛乳やヨーグルトの生産を行っているようですが、北海道から運ばれてきた生乳が、私たちが普段飲んでいる製品となるまでの過程や商品の新鮮さを保つための工夫、SDGsへの取り組みについて、スライドを交えながら詳しく説明してくださいました。



工場の方が詳しく案内してくださいました。最後に子どもたちが様々な角度から質問しました。



その後、子どもたちの質問にも丁寧に答えてくださいました。私たちは日常からありとあらゆる「工業製品」と接していますが、それらがどのようにして形作られていくのか、また生産する人々の思いなどを知る良い機会となりました。

【児童の感想】

- ・北海道から牛乳を運ぶために、車(トレーラー)のナンバープレートが前と後ろで違うことに驚きました。
- ・牛乳をつくるために、味の検査や殺菌、賞味期限、微生物検査など、たくさんの検査が行われていることにびっくりしました。
- ・部屋の清潔さの度合いによって、床の色を変えていることに感心しました。
- ・牛乳をつくっている会社がSDGsに取り組んでいるとは思いませんでした。



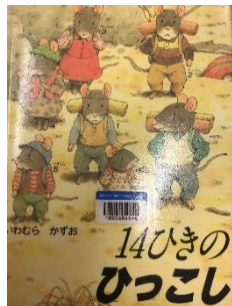
からのおしらせ

～物語に寄り添って～

みなさんは本を読む時、登場人物の心情を理解したり情景を思い描いたりしていますよね。これまで読んだ本の中で、「主人公の気持ち、わかるな。」「私も以前そんなことがあったな。」など、その本に寄り添ったことがあるのではないのでしょうか。実は、私たち読み手だけでなく、物語を考えた書き手も、主人公に寄り添っている本がたくさんあるのです。今回は、書き手が自らの体験や経験を取り入れた絵本をいくつか紹介します。

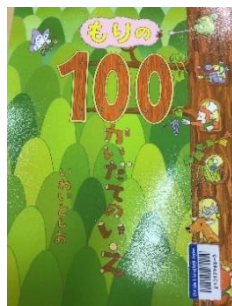
○14ひきのおひっこし○ (いわむら かずお さく)

この物語は、14匹家族のねずみたちがお引越しをするお話です。みんなで竹や材木を運んで台所や2階3階を作って、引っ越し先の新居を協力して建てます。最後のページには、完成した新居で、家族そろってご飯を食べる絵が描かれています。これは、作者：いわむらかずおさんが、疎開から戻ってから家族で暮らせるようになったご自身の思い出が重なっています。いわむらかずおさんが実際に引っ越しをされた際に、お金がなかったので家の設計図を書き、井戸掘りや家までの道路の砂利引きをしたり、生活に必要な食糧や燃料を自分で確保したりしたそうです。そんな自身の体験を投影させて作った絵本です。



○もりの100かいだてのいえ○ (いわいとしお さく)

この物語は、様々な生き物がすむ100階建ての家を、主人公が訪ねていくお話です。この絵本に出てくる場所は、作者：いわいとしおさんが実際に住んでいる伊豆の暮らしをイメージして作られたものです。絵本に出てくる鹿も猿もクワガタもムカデも、実際に近所に住んでいる生き物です。奥さんがウクレレを弾くことが好きなので猿がウクレレを弾いている場面があったり、夫婦で裁縫をすることも好きなのでカメレオンがミシンで色が変わる服を作る場面があったりします。



他にも、レオ=レオニさんの「スイミー」「マシューのゆめ」「フレデリック」も、作者の体験や思い出、考えなどを投影した絵本だそうです。ぜひ一度、読んでみて下さいね。

12月の主な行事・予定

1	水	
2	木	
3	金	クリスマス礼拝 / Christmas Worship Service
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	
8	水	委員会活動 / Students' Committee
9	木	SPTカンファレンス / SPT Conference (午前授業 / AM lessons)
10	金	SPTカンファレンス / SPT Conference (午前授業 / AM lessons)
11	土	
12	日	
13	月	SPTカンファレンス / SPT Conference (午前授業 / AM lessons)
14	火	SPTカンファレンス / SPT Conference (午前授業 / AM lessons)
15	水	SPTカンファレンス / SPT Conference (午前授業 / AM lessons)
16	木	午前授業 / AM lessons
17	金	終業礼拝 / Closing Worship Service (午前授業 / AM lessons)
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	

1月の主な行事・予定

1/6 始業礼拝 / Opening Worship Service, PYP Planning (午前授業 / AM lessons)